

大慈山乙訓寺は西岡今里にあり。当寺は推古天皇の御願にして、聖徳太子の開基なり。其後弘仁二年の冬、弘法大師別当職に補し、八幡宮の示現を蒙り、大師の像を彫刻し給ふに、御首に八幡宮化現し神像にきざみ給ふ。是密法擁護のしるしなりと、故に神仏合体の御影といふ。当寺の本尊是なり。例祭三月廿一日開帳す。又寛平法皇脱履のはじめ行宮とし給ふ、是によつて法皇寺とも名づく。いにしへは方境広大にして伽藍嚴重たり、中頃南禅寺の伯英和尚住職し、又武州護持院再興ありて真言宗とあらたむ。

関伽井は乙訓寺の東にあり、大師密法修行の時汲給ひし霊水なりとぞ。

今里（和歌に詠ず）

日暮るれば遠の今里蚊火たて、鳥羽田の面に烟たなびく

覚明法親王